

愛知老人コミュニティーセンター ニュース

日本基督教団
愛知老人コミュニティーセンター
〒470-0111 日進市米野木町南山987-88
TEL. 0561-74-5548
FAX. 0561-74-5561

ホームページ <http://www.mb.ccnw.ne.jp/makiba>
E-mail makiba@mb.ccnw.ne.jp
発行日 2005年1月27日
発行人 鈴木 卓也

「まきば」通信

第6号

「まきば」の近況について

「まきば」理事長 篠田 潔

今年の1月で「まきば」は開設満8年になります。自立を前提として入居された方たちの高齢化に伴って介護が必要となり、介護費の増大によって一時は赤字を来しましたが、その後介護保険制度の導入などにより順調な黒字経営となっています。次々に新しい老人施設が建てられ、介護保険制度の見直しもなされるという事態の中で、将来展望もそう容易ではありませんが、入居希望の方が次々に来られて、満室に近い状況で経緯しております。

かねてから必要としながら実現に至らなかった介護専用その他必要な施設は、小規模ながら新しく建てる計画を進めています。これは予期していなかった多額の献金がなされたため、ご心配いただいております。なお、当初から賃借してきました「まきば」本体の底地は、昨年購入して教団の特別財産とすることが出来、土地建物共に自前のものとなりました。

左記のように「まきばのマーク」を作りました。「おお、まきばはみどり」のように原色は緑です。

本紙は教区内諸教会の皆様にお読みいただくことを願って編集発行しているものです。「自立をみざす」という課題を果たすためにも、今後とも御加禱御支援の程をお願いいたします。

「年配読書」を エンjoyしませんか……………2	戸田 安士
俳句・短歌……………3	
「まきば」のクリスマス……………4～5	
「神の選び」……………6	松田 一路
●	
「大牧者イエス・キリストのもとで」 「まきば」理事 大島 純男……………7	
施設長の「まきば」報告 施設長・館長 鈴木 卓也……………7	



「年配読書」をエンジョイしませんか

金城学院理事長・学院長 戸田 安士

七十歳を過ぎて、古典を読むことの楽しさを、改めて味わっています。いま、読みなおしているのは、ロシアの文豪、ドストエフスキーの作品で、先月の中旬、「カラマーゾフの兄弟・全3巻(江川卓訳)」から、大きな感動をもらったばかりです。

歳をとってからの読書、これを「年配読書」と名付けますと、「年配読書」では、長い人生の中でえた私たちの喜怒哀楽が、作中人物の動きに呼応して息づく瞬間が繰り返し訪れるのを楽しめます。これが、若い時にはなかった「年配読書」の醍醐味です。

しかし、「年配読書」は忘れっぽさとの戦いです。作中人物の名前は言うに及ばず、その人物の背景や人間関係、時にはエピソードの筋書きでさえ、曖昧模糊の霧に沈みます。いきおい、「年配読書」は行きつ戻りつの難行苦行です。

そんな悪戦苦闘から、私は、いつしか、忘れっぽさの予防策を編み出していました。ひとつは、本の表紙や扉の余白に、作中人物の関係図を書き込むことです。こうした作業そのものが、作品の内容の正確な理解に役立ちますし、とくに、名前を覚えるには抜群の効果を発揮します。もうひとつの工夫は、感動した箇所や、ヒントを与えられた箇所に、朱の傍線を施して、欄外に短く、感想をメモしておくことです。全部を読み終えたのちに、もう一度、朱の傍線の箇所だけを拾い読みして、味わい直すのに好都合です。

それから、一つの作品が、作家のどんな人生の、どんな生活のなかで紡ぎだされたものか、作家の生涯、とりわけ、その「こころの軌跡」に強い関心を抱くのも、「年配読書」の特徴かも知れません。いま、ドストエフスキーの「こころの軌跡」を、ある現代のロシア文学者の書物を手がかりに辿っ

ていますが、これを読み終えたら、もう一度、「カラマーゾフ」を読み直してみようと思いつきました。前とは違った景色をみることになるかも知れない、そういう楽しみがでてきたからです。

私の場合、青年時代を除いて、文学作品に親しむ機会はほとんど持てませんでした。多忙さに振り回されての、「こころを亡くす」生活だったからです。文学に親しむ「年配読書」のきっかけは、ほんの偶然からでした。欧州旅行の長いフライトのつれづれにと、藤沢周平の作品を偶然手にしたことです。若い時なら見向きもしなかったであろう、大衆文学の旗手、藤沢周平のなんとも味わい深い文章に魅せられ、高潔さと愛情を内に秘めた作中人物につよく惹かれました。ついに、燦し銀の藤沢作品のとりこになって、ほとんどの作品を読み終えていたのです。それから、何人かの日本人作家を渉猟したのち、いまは若い時に読んだままにしていた外国文学の古典に、「年配読書」の楽しみを見いだしています。いつか、「年配読書」を楽しむ人々の集いができたらなと思っています。

あなたも「年配読書」をエンジョイなさいませんか。



「俳句・短歌」

〈俳句〉



旧友の 終焉悲しや 百合の花

朝倉 和代

残り菊 あつめ添へ木に 凭せ掛け

浅野 み祢

向日葵や 胸に焼き付く ゴツホの絵

石原 信良

京に来て 菊の酢和へに もてなされ

伊藤 好子

月仰ぐ 幼な瞳の 澄みぬたり

井上 和子

中天に かかりて淡き 昼の月

大谷多可子

菊の香や 飛鳥の野仏 笑み給ふ

城崎 幸子

コンサート 果ててひとりの 月の道

富田 きよ子

琴の音の 流れ美し 月夜かな

富田 晏弘

満月の 朧見えぬと 聞く子かな

藤高 好子

また一人 友の逝きけり 萩の雨

松井 真

あれこれと 祝ぎごとつづく 菊日和

森 枝葉子

向日葵に 回れ右して 散歩かな

山内 義盛

月光に 丘の十字架 照らさるる

山下 比奈子

水茎の あとに明治や 一葉忌

安井 照男

〈短歌〉



中越の 被災地にみる ボランティア
青年の顔 輝きみゆる

後藤 正子

寒き朝 葉牡丹見れば ほのぼのと
朝の光に 包まれし愛

中村 婦佐

松花江は 厚く凍りて 道路となり
鈴を鳴らして 馬車の往き交う

森島 利定

「まきば」のクリスマス

すっかり恒例になりました「まきば」でのクリスマス諸行事が、今年も厳粛かつ賑やかにおこなわれました。

12月11日(土)、愛知老人コミュニティーセンター主催のクリスマス。第一部は 篠田潔理事長の説教を中心に、毎月「賛美の集い」で奉仕して下さっている小崎厚子姉とグループ“Laudis”の賛美による礼拝。第二部は、食べきれないほど並んだ豪華な料理と「まきば賛美の集い」のメンバーによるハンドベルの演奏。入居者の皆様を中心に、ボランティアの先生方、近隣施設の代表者、理事の皆様を交えて楽しいひと時を過ごしました。

20日には、名古屋学院「一麦会」主催のクリスマス。柿沼学院長はじめ教師の皆様とたくさんの中学生、PTAの皆様も交え礼拝と賛美、その後は若い人達と入居者の皆様とのクリスマスカードの交換など、楽しいひと時を持つことができました。



23日には、名古屋東教会、清水先生と教会員の皆様、教会学校のメンバーによるケーキ作り。礼拝をして、一緒に作業をして、おいしく食べて、仲よく歌って、温かいひとときを過ごすことができました。

どの会も主の降誕を祝い、楽しく交わりを持つことができ感謝でした。



▲入居者の皆様が準備して下さったクリスマスの飾りつけ



▲「まきば」クリスマスの礼拝





▲「まきば」クリスマスに準備されたおいしい料理

▲名古屋東教会の皆様と楽しいケーキ作り



▲名古屋学院の中学生による聖歌隊



▲「まきば」クリスマス“Laudis”の皆様による賛美

「神の選び」 コリントの信徒への手紙 一 1章27～29節

隠退教師 新古有祈 の家ヘルモン荘 松田一路

自閉症そして男性恐怖症、小学中学は不登校で自分のことは何一つ出来ない、人の前では声を出したことの無い私が伝道者として選ばれた。

神の愛は次々と与えられる試練によって私を強くしてくれた。体の弱い妻は幼稚園の子どもから猩紅熱をうつされ隔離病院に。その時、みごもっていた長男は脳性小児麻痺で生れ二才半まで歩けなかった。長女は一年二ヶ月年上。その二人の子をおいて肺結核で療養所に。娘が小学校入学の年まで二人の子は父親一人で。歩けない息子を毎日マッサージのため病院に、これもひと仕事。教会そして幼稚園の働きに加えて病院伝道。そこで牧師は語る前に聞くことを教えられた。病む人の心を知って短かい三分メッセージ。それは後年日替テレホンサービスに役立った。勉強していない私は字を知らない。寝て本を読むのが仕事の妻が、私に代って本を読んで話してくれる。それを自分で読んだかのように説教。

子どもは可愛い。子どもと遊んでいると楽しい話が歌が生まれる。自作自演。犬をこわがる子に犬と仲よくなれるよう、

ワンワンワンワンお話は
郵便屋さんが来ましたよ

キュッキュッキュッキュッキュお話は
お腹がすいたの催促だ

オンオンオンオンお話は
遠くの友だち呼んでいる

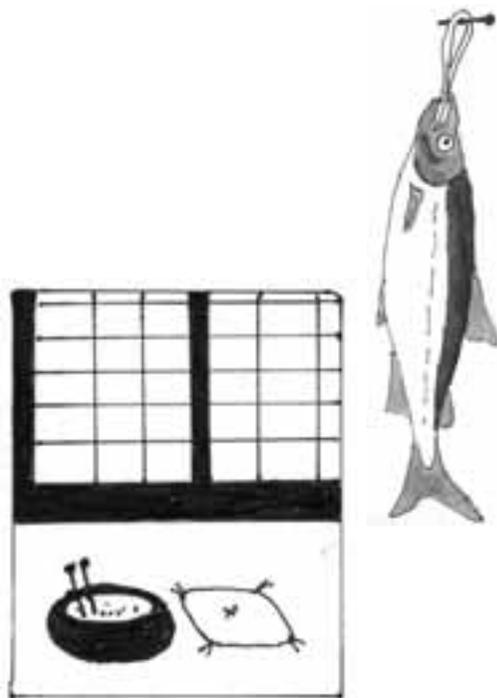
しっぼとしっぼのお話は
内緒話よ、あしたまた。

全能の神は何も出来ない私のなかに働いて、なんでもできるようにして下さる。自分のためには何も出来ないが、神と隣人のためにはなんでも出

来る。名古屋から新舞子に数日、遊びに来た祖母が、夕食の時、「かずみちの魚の骨を取ってやったか？」と発言。妻は、「本当に、あなたはなんにもできなかったの？」と驚いていた。

「姓はまつだです、名前はかずみち。年は八十一で、子どもは二人、孫も三人いて主イエスを信じ、クリスチャン四代目から六代目の家族」祖父母は両親は、教会生活を楽しんでいた。働きながら賛美し、朝に夕によく祈っていた。それは魂の呼吸のように。ごく自然に私も信仰を与えられ六五年前に受洗。五九年前に伝道者に。五一年前に正教師に。神は、万事を益となるように今日まで導いて下さった。

五五年生活を共にした妻は去る八月二十日突然、主に召されたが、二月二五日私の誕生日に「神様に仕える様にそして多くの人に愛され元気で長生きして下さい」とバースデーカードをくれた。



大牧者イエス・キリストのもとで

「まきば」理事 大島 純男

旧約の詩人は、「生涯の日を正しく数えるように教えてください。／知恵ある心を得ることができまますように」(90編12節)と願いました。

わたしたちに与えられた日数はそれぞれに異なります。確かに長短の差はありますが、問題はその過ごし方です。

人生を徒競走になぞらえて、パウロは、「なすべきことはただ一つ、後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けつつ、神がキリスト・イエスによって上へ召して、お与えになる賞を得るため、目標を目指してひたすら走ることです」(フィリピの信徒への手紙3章13節14節)と書いています。

ひたすら目標を目指して走っているパウロに、肩肘を張っているとが、息切れをしている様子は見られません。主イエスに対する絶大な信頼があるからです。

愛知老人コミュニティーセンター、シルバーホーム「まきば」の入居者の中で、息切れをしていると見受けられる方は皆無という印象を受けます。職員の方々の温かい援助があり、何よりも多くの方々の祈りが届けられているため、日々、平安が与えられているのではないかと推察しています。

文字どおり、愛知牧場の中にある「まきば」は、まことの大牧者であるイエス・キリストを中心とした兄弟姉妹たちの安らぎの場です。この度、理事に選任されたわたしは、微力ながらも、中心におられる大牧者を指し示して、共に歩みたいと願っています。



施設長の「まきば」報告

施設長・館長 鈴木 卓也

早いもので、「まきば」に就任して10ヶ月近くが経ちました。その間に、愛知県高齢福祉課による立入検査、AHI研修生との交流会、公正取引委員会による表示規制への対応、情報開示標準化モデル事業立入調査、クリスマス諸集会、あっと言う間に過ぎた感じがしています。新任の施設長を支えてくださった理事長はじめ理事会・センター委員会・センター推進委員会の方々、入居者の皆様、スタッフの人達に心からの感謝でいっぱいです。

その間、大島牧師による病床聖餐の実現、初めての隠退牧師先生入居、底地購入、多額の献金が寄せられていよいよ施設増設が現実近づいた

こと、開設以来8年目にして一時的ではありますが初めて満室になったことなど、長く祈り続けてきたことが次々にかなえられ、本当に驚くばかりの恵みの連続でした。神様がこの施設を愛し、守り続けていてくださることを肌で感じる毎日でした。

これからも、教区の皆様の祈りに支えられて、元気な施設運営をつづけて行きたいと願っています。



「まきば」の周辺風景 ②

■老人保健施設 愛泉館 施設長 川原 啓美

愛泉館は1992年4月に設立された老人保健施設です。当施設は1981年開設の愛知国際病院とともに医療法人財団愛泉会に属しています。病院開設時の三つの理念の内の一つである「地域に支えられ、地域とともに」という考え方が具現化されたのが、1982年から始めた訪問看護でした。しかし、その働きの中で、老人介護など在宅介護の現実、厳しさを目のあたりにし、在宅介護支援のため、当施設愛泉館の設立に至りました。

運営理念として5つを掲げています。

1. 若い人の栄えはその力、老人の美しさはその白髪である。

この旧約聖書の意味を、初代施設長 川原暁子医師は、愛を持って仕えること、そして、目に見えないものを大切にすることだと事あるごとにスタッフに伝えてきました。また、讃美歌の集い、聖書集会も毎週実施しています。

2. 本人の自己決定を重んじること。

3. 在宅介護支援の施設であること。

自己決定を尊重し、在宅に向けての具体的な施設ケアプランを共に考えています。そして、要望に応じ、通所リハビリテーション施設拡張工事中です。

4. 地域に開かれた施設であること。

5. ADL(日常生活動作)とともにQOL(生活の質)の向上をめざす。

開設当初より音楽療法を取り入れ、また、多くのボランティアの導入は高齢者が、昔、習得された芸術性を再び開花させるとともに、新たな力を引き出すきっかけになっています。

精神活動は加齢とともに深さを増すと言われていいます。前向きに求め続ける意欲さえ失わなければ、「精神はさらに深さを増し、幅を拡げ、豊かなものになっていく」ということを、私たちは、90才代・100才代の方々の微笑み・仕草・目の輝き・創作品(書・詩歌・縫物・・・等)から学んでいます。(佐賀)



編集後記

2005年にはいり、寒さが身にこたえる季節、お元気でお過ごしでしょうか。愛知老人コミュニティーセンター館長・シルバーホーム「まきば」施設長の新旧引継、全入居者との面談も順調に終わり、新たな課題にむけて歩みはじめて中、「まきば」通信6号をお届けすることができ感謝です。

さて、「まきば」は、中部教区諸教会の祈りと求めによって建てられ、入居されている方々、働き人たち、支える人々、そして近隣諸施設に励まされて歩んできました。

これからも、神様のみ栄えが現れるところとしてさらなる充実、発展を願いつつ、「まきば」通信が、入居者の同人誌的理解をこえて、広く教会関係の方々にも読んで頂けるよう、編集にあたりたいと思っております。(真木)

